

# 子どもの発達傾向が参照可能な発達相談ブログシステムの構築

宮村 幸祐† 新谷 公朗†† 糠野 亜紀†† 芳賀 博英†

†同志社大学 工学部 ††常磐会短期大学 幼児教育科

## 1 はじめに

近年、保育所や幼稚園（以下、「園」と呼称する）における「気になる子ども」が増加傾向にある。このような子どもの保育には、医学や発達心理学の知識が必要となってくるが、そのような知識を持つ保育者は少ない。そのため、国の政策として、特別支援や心理学の専門知識を持つ相談員が定期的に保育園を巡回し、保育者の「気になる子ども」の保育に対するカンファレンスを行う「巡回相談」制度が導入された。

著者らは、この巡回相談を支援するための子ども発達相談ブログシステム [1] を提案してきた。従来のシステムは、巡回相談の支援に対して有効ではあるものの、相談員はカンファレンスの対象となっている子どもの発達の傾向が分からず、十分な回答ができていないと言いがたい。そこで本稿では、相談員がより深いアドバイスができるように、子どもの発達傾向が参照可能な子ども発達相談ブログシステムを提案する。

## 2 研究背景

### 2.1 巡回相談

巡回相談とは、専門的な知識を持つ相談員が定期的に園を訪問し、保育者とカンファレンスを行い、保育者にその園児への保育についてアドバイスを行う制度のことである。巡回相談は一般の保育士では難しい「気になる子ども」の保育を行う上で、重要である。しかし、巡回相談が抱える問題として以下の点が挙げられる。

- 財政的な問題から、相談員は必要数が確保されおらず、頻繁に園を訪問する事は困難である。また、カンファレンスの時間も限られてくるため、保育者に十分なアドバイスができない。
- カンファレンスの内容は今後の保育において重要であるものの、結果の記録は作成されないことが多い。また、たとえ作成されたとしても、保育士と相談員の間での記録に関する意見の交換は困難である。

### 2.2 子ども発達相談ブログシステム

子ども発達相談ブログシステム [1] は、従来のブログを参考にし、Web サーバ上でカンファレンスを継続するというシステムである。保育者は次回の巡回相談

日までこのシステムを介して、相談員と相談を行いながら保育を進めることができる。また、システム上にアップロードされたカンファレンスがそのまま記録として残り、いつでも閲覧が可能になる。

子ども発達相談ブログシステムは巡回相談に有効である。しかし、相談員はカンファレンスの対象となる園児について、深い理解があるとは限らず、そのためカンファレンスに対して十分な回答ができていないと言いがたい場合がある。そこで、従来のシステムには備えられていなかった「園児の発達傾向の参照」という機能を加えた、新しい子ども発達相談ブログシステムを構築した。

## 3 提案システム

### 3.1 提案システムの概要

本稿で提案するシステムが持つ主な機能は以下の通りである。

- 相談記録のアップロード
- 相談記録へのコメント追加
- 相談記録の PDF 化
- 園・クラスの管理
- 園児の発達傾向の参照

本稿では従来のシステムが備えていなかった「園児の発達傾向の参照」に関してのみ述べる。

### 3.2 園児の発達傾向の参照

「園児の発達傾向の参照」の機能の実装にあたって、発達記録支援システム [2] の一部を Web サービスとして利用している。発達記録支援システムは、Web サーバ上で園児の発達観察項目の評価<sup>†</sup>をつけ、システムに蓄積する。本システムは SOAP プロトコルを利用して、その蓄積された評価のデータを取得し、それをグラフとして可視化する。システムの概要を図 1 に示す。

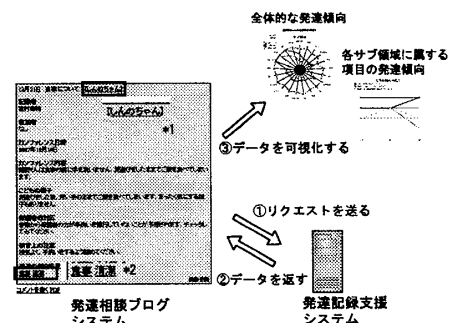


図 1: システムの概要

Combining development counseling blog system and development recording system

† Kosuke MIYAMURA

†† Kimio SHINTANI

†† Aki KONO

† Hirohide HAGA

Faculty of Engineering, Doshisha University (†)

Department of Early Childhood Education, Tokiwakai College (††)

<sup>†</sup> 評価は 2 歳児以上に関しては「4」から「0」の 5 段階、2 歳児未満に関しては「2」から「0」の 3 段階でつけられている

本システムはアップロードされたカンファレンスの記録から、発達傾向を参照できる。図1中に示しているのが、アップロードされたカンファレンスの記録の一例である。カンファレンスの記録の中の「\*1」に示している「しんのちゃん」はそのカンファレンスの対象になっている園児の名前である。この名前をクリックすることで、その園児に関する発達記録のデータを発達記録支援システムから取得し、そのデータを基にグラフを生成する。それにより、その園児の全体的な発達傾向を参照できる。

また、「\*2」に示している「食事」「清潔」はそのカンファレンスがどのサブ領域に属しているかをカテゴライズしたものである。サブ領域とは、全392個の発達観察項目を5種類の領域に分類し、それをさらに22種類に細分化したものである。1つのカンファレンスにつき、最大2つのサブ領域をカテゴライズできる。サブ領域名をクリックすることで、そのサブ領域に属する項目の評価を発達記録支援システムから取得し、グラフを生成する。それにより、該当するサブ領域に属する項の発達傾向を参照できる。

上記のように、子どもの発達傾向を参照できることで、このカンファレンスに関して、相談員はより充実したアドバイスが可能になる。以下で「全体的な発達傾向」と「各サブ領域に属する項目の発達傾向」について、説明する。

### 3.2.1 全体的な発達傾向の参照

カンファレンスの対象の園児の発達傾向を可視化するため、各サブ領域に属している発達観察項目の評価値の平均を求め、サブ領域全体をレーダーチャートとして出力する。これを参照することにより、その園児がどの分野において発達が遅れているかが分かるようになる。また、同時に3月分の評価を出力することにより、その園児の発達の変化を知ることができる。例を図2に示す。

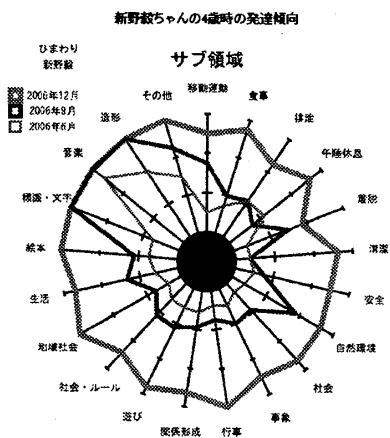


図2: サブ領域全体の発達傾向の参照

従来のカンファレンスでは、対象の園児の一部分の傾向に関してのみ注視されることが多かった。しかし、

子どもの発達は色々な要素が密接に関係している。図2のレーダーチャートを参照することで一部分ではなく、園児の全体的な発達傾向を知ることが可能になり、それにより従来とは違う、多様な視点から相談員は保育のアドバイスを行うことができる。

### 3.2.2 各サブ領域に属する項目の発達傾向の参照

上記で述べたレーダーチャートでは、各サブ領域に属している発達観察項目の平均値を出力しているため、各発達観察項目の詳細な変化を参照することはできない。詳細な変化を参照することができれば、より深い内容のカンファレンスが可能になると考えられる。そこで、各サブ領域の各発達観察項目の月ごとの評価をグラフ化して出力し、参照できるようにした。図3に例を示す。

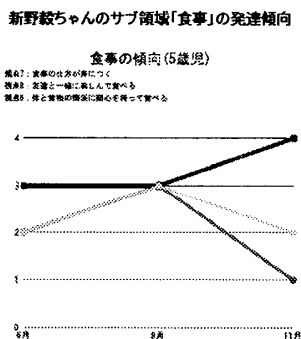


図3: 各サブ領域に属する項目の発達傾向

図3のグラフを参照することで、カンファレンスの対象となっている園児の詳細な発達傾向を知ることができ、より深い内容のカンファレンスが可能になる。発達観察項目は園児の年齢によって内容が異なるため、グラフは年齢ごとに出力するようにした。

## 4 まとめ

本稿では、子どもの発達傾向が参照できる発達相談ブログを構築した。本システムにより、相談員が「気になる子ども」に対して、より深い内容のカンファレンスができるようになり、より有効な巡回相談を行えるようになる。今後の展望として、まず実際に巡回相談を行っている相談員に本システムに関してのヒアリングを行い、本システムが巡回相談に関して有効であるかどうかを検討したい。そして、園に導入し、社会的有効性を検討したい。

### 参考文献

- [1] 白井由希子, 糠野亜紀, 新谷公朗, 井上明, 芳賀博英, 金田重郎. 「子ども発達相談ブログ」システムの提案と評価, 情報処理学会, 情報システムと社会環境研究会, 第101回研究会, 2007
- [2] 仁木賢治, 糠野亜紀, 新谷公朗, 金田重郎, 芳賀博英. 多様な子どもの発達段階に対応した発達記録支援システムの構築, 教育システム情報学会, 第6回研究会, 2007